

TSUNAGARI Magazine Kizuna

2024/8
Vol.34

金沢星稜大学同窓会誌

TOKYO DOME

学校法人稲置学園 新理事長に 檜見由美子氏就任

2024年度理事会・懇親会 開催報告
市民講座2024年度プログラム
きずなコネクト開設

活躍する同窓生

泉 圭輔さん(経済学部 1部 49期生)
小寺 美和さん(経済学部 1部 35期生)
伊藤 真衣子さん(人文学部 1期生)

石川教授インタビュー

「星稜のと応援祭」開催報告
富山県支部活動報告
同窓会流星祭出店報告
北國フォトクイーン在学生2名選出

表紙写真／泉圭輔さん(経済学部 1部 49期生)

学校法人稲置学園 新理事長に榎見由美子氏就任

学校法人稲置学園は、前理事長の任期満了による退任に伴い、令和6年6月10日（月）に開催された理事会におきまして、榎見由美子氏が理事長に選任され、同日付けで就任いたしました。

本年、1月1日の震災により被災された方々に対して心よりお見舞い申し上げます。

この度、理事長に選任された榎見でございます。理事長として、これからの稲置学園の将来構想、具体的には2024年～2028年にかけての第4次中期計画並びに2042年の学園の将来ビジョンの実現に向けて、自らの果たすべき役割と責任の重さを実感しております。

当面の課題としては、まずは「能登の震災で被災した学園施設の復旧」があり、そして「大学の新領域を含む学部再編」「津幡キャンパスの整備」、そして「新たな中高一貫6年教育の確立」等の課題解決が求められております。

また監事の職にあった4年余りの間、法人並びに各設置校の業務監査を通じて認識し、その改善の必要性を強く認識したいいくつかの問題があり、今後これらの改善にも取り組みたいと考えております。

一つは、大学における教育の質の保証及び他大学と差別化できる教育の独自性を確立することです。来年度、大学では教

育研究や学生支援等の水準を測る認証評価が予定されており、現在、この認証評価のために必要な改善措置を着実に進めておりますが、認証評価に合格することは、大学の内部質保証としてのいわば最低ラインにすぎません。また従前には県内の大学において経済学部が設置されていたのは、金沢大学と本学だけであり、私学では絶対的な優位性をもっておりましたが、現在では他大学にも経済系の学部やデータサイエンスを標榜する大学もあり、本学が他大学より優位性を有する状況ではなくなっています。次のステップとしては、教育研究の質のさらなる向上であり、他大学とは異なる個性豊かな優れた学生を輩出するという確固たる社会的評価を獲得することです。

もう一つは、各設置校及び学園全体の財政の安定化の問題であります。被災したキャンパスの復旧、各設置校の未来構想の実現に直結した老朽化施設の改築、短大の跡地である御所町西キャンパスの扱い、津幡キャンパスの具体的な構想の実現など、いずれも時間と費用がかかるものであり、これらの構想を支えるためには、設置校及び学園全体の強固な財政基盤を構築することが必要であります。収入をあげる近道は、授業料等の各種学納金を値上げすることではありますが、各設置校の志願者やその保護者が、その対価とされる教育の内容及び質と、その成果である出口、即ち大学における就職実績、高校における進学実績等がその対価に見合うものかという厳しい評価が待っています。両者の均衡が取れた上での財政の健全化が望まれます。また財政改革と並んで、教職員の働き方改革を進めるとともに、より良い職場環境の整備も必要です。こうした課題の解決には、船の道筋を示す羅針盤がそこにあるわけではなく、目的に到達するための選択肢は複数あり、どの選択肢を活用することが学園にとって適切なものなのか明らかではありません。理事長として、役員のみならず教職員の皆さん、そして、学園や各設置校を応援する皆様（同窓会や保護者会）のお知恵を借り、議論をして一歩でも稲置学園の発展につなげていきたいと考えております。

学校法人稲置学園 理事長 榎見 由美子



榎見 由美子

（かしみ・ゆみこ）1954年1月生まれ。1976年、金沢大学法文学部卒業。1983年、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得満期退学。1984年、日本学術振興会奨励研究員。1985年、金沢大学法学部講師。1996年、同教授。2006年、同大学院法務研究科長併任。2008年、金沢大学理事・副学長。2014年、同人間社会学域・研究域長併任。2019年、金沢大学退職。同年、同名誉教授。同年、学校法人稲置学園監事就任。2024年、同理事就任。同年、同理事長就任【学外】国・石川県・金沢市等の各種委員会等委員

2024年度 理事会・懇親会が開催されました

日時／2024年6月22日(土) 17時～
場所／ホテル金沢

理事会では、次の議案について審議・承認されました。

《議案》

1. 2023 年度事業報告・決算報告
2. 2023 年度監査報告
3. 2024 年度事業（案）・事業予算（案）
4. 2024/2025 年度新任理事・新理事（案）

《報告事項》

1. 同窓会会長選結果報告
2. 学生褒章者リスト報告
3. きずな connect 運用状況報告
4. 大学主催「星稜のと応援祭」への協賛金支出報告



理事会終了後、懇親会が開催されました。
上野会長のあいさつの後、稲置前理事長から退任のご挨拶のお言葉をいただき、長年同窓会に多大なるご厚情を賜りました感謝の気持ちとして花束を贈呈させていただきました。

引き続き、榎見新理事長から就任のご挨拶と大久保学長の代理で井上副学長からお言葉を頂戴しました。

小嶋同窓会相談役の乾杯の御発声を合図に、大学の先生方と同窓生との親睦が深まり、なごやかな懇親会となりました。



2024年度「市民講座」がスタート

金沢星稜大学では地域に開かれた大学として、教育と研究の成果を地域社会に還元するために公開講座等を通して地域の皆様に対し、広く学びの場を提供しています。

その活動の一つが「市民講座」で、年間を通して本学教員が身近な事例や最新の情報などを取り上げてお話しします。

■期間：2024 年 9 月 21 日（土）～ 2024 年 12 月 21 日（土）

〔入場無料〕 ※希望する講座を HP の各講座の申込フォームよりお申し込み下さい。

■会場：金沢星稜大学 本館 A51 講義室他

■主催：金沢星稜大学総合研究所

■日程

詳しくはこちらから



会場、オンラインどちらでの参加も可能です。開催について変更が生じた場合はホームページでお知らせします。

各講座開催日の 3 日前をお申込みの締切とさせていただきます。

第1回	9月 21日(土)	能登半島地震の避難所におけるeスポーツの取り組みと障がいに関わらない家庭用ゲーム利用の可能性	講師：新谷 洋介 教授
第2回	9月 28日(土)	「能登駅伝」の復活開催を目指して ー1970年代の3大学生駅伝「能登駅伝」を知ろうー	講師：大久保 英哲 学長
第3回	10月 5日(土)・6日(日) [1泊2日]	「能登駅伝」の復活開催を目指してー当時のコースを踏査しましょうー	講師：親谷 均二 元特任講師
第4回	10月 12日(土)	睡眠と運動の科学	講師：塩田 耕平 准教授
第5回	10月 19日(土)	「通夜」本来の深い意味を知る	講師：バイヤー アヒム 教授
第6回	11月 9日(土)	運動+認知トレーニングで健康寿命を延ばそう	講師：井川 貴裕 助教
第7回	11月 16日(土)	やさしくわかりやすい経済学と世界をとりまく国際経済学の基礎	講師：川島 哲 教授
第8回	11月 30日(土)	従業員エンゲージメントとは？楽しく働く、はたらいでもらうには？	講師：梅田 充 准教授
第9回	12月 14日(土)	やってみようロジカルシンキング	講師：堀口 英則 教授
第10回	12月 21日(土)	「かなざわおふろ旅」ー石川県のユニークな銭湯紹介ー	講師：高島 悠 大学事務局

一部会場が異なりますので、各講座の会場をご確認ください。※駐車台数に限りがございます。

【お問い合わせ】金沢星稜大学総合研究所 〒920-8620 金沢市御所町丑10番地1 TEL 076-253-3984 FAX 076-253-3998 E-mail seiryu-research@seiryu-u.ac.jp (HPより)



デジタルでつながる

きずな
connect
金沢星稜大学同窓会

開設



同窓会から卒業生のための
各種イベント・ご案内をお送りしています。

今後、金沢星稜大学同窓生であればどなたでも参加できます。交流会開催の日時が決まり次第
随時ご案内しますので、まずはご登録下さい。

ご登録は
こちらから



やるべきことをちゃんとやれば 必ず結果はついてくる



©YOMIURI GIANTS

読売ジャイアンツ 投手 63 泉 圭輔

経済学部 1 部 49 期生

(いずみ・けいすけ) 1997年石川県金沢市生まれ。石川県立金沢西高校から金沢星稜大学に進み、同大学野球部では1年秋からベンチ入り。北陸リーグで通算23勝を挙げ、2018年NPBドラフト6位で福岡ソフトバンクホークスに入団。23年オフにトレードで読売ジャイアンツに移籍。188センチ、80キロ。右投右打。背番号63。好きな食べ物のはのどろ。

福岡ソフトバンクホークスから昨年オフ、読売ジャイアンツに移籍し、すでにチームに欠かせない貴重な戦力となっています。注目度上昇中の泉選手に新チームのことや目標などをうかがいました。

大胆に自分を変え、好成績につなげる

—ジャイアンツ移籍後、ピンチの場面で登板するものの、15試合連続無失点に抑えるなど、安定感抜群の投球がチームの躍進を支えています。これまでの活躍をどのように思われていますか。

昨年、ホークスで思うようにいかなかった部分が多く、今回の移籍はもう一度、ゼロからスタートできる大きなチャンスと捉え、これまでと意識も変えて、大胆にいろいろチャレンジしながらやっています。その取り組みがうまく結果に結びついていると思います。—ジャイアンツの雰囲気はいかがですか。

ホークス時代と比べると取材される機会が圧倒的に多く、球団の注目度の高さを改めて実感しました。伝統ある球団なので、ジャイアンツの名に恥じない行動が日ごろから選手一人ひとりに求められています。本拠地の東京ドームは、初勝利を挙げた球場でもあり、投げやすく、自分の中でも特別な場所となっています。

—もともとジャイアンツファンだったそうですね。

石川県では巨人戦のテレビ中継がよく放送されていて、家族もジャイアンツを応援していたので、自分も自然とジャイアンツファンになっていました。地元で巨人戦がある時は、石川県立野球場にも足を運んでいました。個人的には上原浩治さんが好きでした。—今シーズンから阿部慎之助監督が就任されていますが、いかがですか。

小さい時から見てきた日本を代表する選手だったので、お会いするのも楽しみでした。キャッチャー出身の監督なので、投手一人ひとりの特徴や性格に合わせたアドバイスをいろいろいただき、本当に

助かっています。

—帰省中、元日の能登半島地震に遭われたそうですね。

七尾市の祖父母の家に家族全員が集まり、のんびり過ごしている時に体験したことのない激しい揺れに襲われ、立っているのもやっとの状況で命の危険さえ感じました。幸い家族全員無事でしたが、祖父母の家は半壊し、一晚避難所生活も経験しました。地域のボランティアの方々やSNSで有益な情報発信をしてくれる方にも本当に助けられました。

思い出が詰まった球場で凱旋登板

—5月の北陸シリーズでは、対DeNA戦で凱旋登板も果たし、チームの白星にも貢献されました。

選手紹介の際、「金沢星稜大学出身」と異例のアナウンスがされ、驚きました(笑)。福井県営球場は大学時代、リーグ戦で何度も投げていた球場だったので、プロになって満員となった球場に帰ってこれて感慨深いものがありました。

—学生時代の経験が役立っていることはありますか。

金沢星稜大学野球部の環境は、強豪校に比べると、当時は決して恵まれているとは言えませんでした。それでも環境を言い訳にせず、やるべきことをちゃんとやってきたことが今につながっていると思っています。

チーム最多登板でリーグ優勝と日本一に

—最後にこれからの目標を聞かせてください。

チームから求められればいつでもどこでも投げ、チームの最多登板とリーグ優勝、日本一を目指して頑張ります。

(2024年7月16日 取材)



今シーズンの目標「リーグ優勝 日本一」を色紙に

私の運命が変わった澤ゼミ



株式会社のろし
企画マネージャー

小寺 美和

経済学部 1 部 35 期生

珠洲市では昨年5月にも震度6強の地震がありました。今回(令和6年能登半島地震)の2回目の揺れは長く凄まじいものでした。元日は14時までの勤務を終え、珠洲市内の自宅でひと息ついていた時、地震に襲われ、慌てて外に飛び出し、コンクリートの柱にしがみついているだけで必死でした。幸い職場としてい

る「道の駅狼煙」は、水道管が一部破損したり、豆腐の製造機が壊れたりしたものの、建物に大きな損傷はなく、4月4日から営業を再開できました。地震の影響で職場を離れる人もいて、現在6人のスタッフが地元の在来種・大浜大豆を使った豆腐やおからドーナツなどの製造から特産の丹生そばの配膳、珠洲産の特産品の販売、接客、レジ打ち、品出しと一人ひとりが何役もこなしながら対応しています。被災したことでみんな逞しくなり、団結力も増し、自分もいろいろなことに前向きに取り組めるようになりました。

振り返れば、大学2年から所属した地域課題の解決に取り組む澤信俊ゼミとの出会いが私の運命を変え、これまでの人生が一本の道でつながる大きな転機ともなりました。

澤ゼミでは、文化経済学のまちづくり第1回プロジェクトとして、珠洲市の日置小・中学校の廃校の跡地利用の調査研究を行いました。珠洲市内は全10地区あり、日置地区は外浦と呼ばれるとりわけ冬の風雪が厳しい日本海側に面した最北端に位置しています。調査研究を通じて、その地域にどんな気質の人が住み、どんな暮らしや文化が根付いているのか、多くの人から深く学び、まちづくりに携わる楽しさを知る機会ともなりました。

卒業後は、まちづくりのノウハウを学ぶため金沢市の総合建設コンサルタントに入社し、営業や都市計画にも取り組みました。入社から3年が過ぎ、少し仕事に慣れてくると、「本当に自分のやりたいことは何なのか」「このままでいいのか」と自問自答するようになっていきました。澤先生にも相談していた時、珠洲市のふるさと雇用の募集を知り、26歳で珠洲市に移

住することに。財団法人鉢ヶ崎リゾート振興協会に所属して、海水浴場や珠洲焼資料館、リゾートホテルなどが集積する「りふれっしゅ村鉢ヶ崎エリア」の交流人口拡大やにぎわい創出に関する新規事業に携わりました。2011年から3年間、まちづくり支援員として珠洲市役所企画財政課で、地域団体やNPOの活動支援などを主に行いながら、珠洲市内の困り事を聞いてまわり、どうすれば集落が元気になるのか、そんなことばかり考えていました。

市役所の退職後、澤先生が日置地区の有志らと2014年に立ち上げた株式会社日置之国に入社し、珠洲市指定管理者として「奥能登すず体験宿泊施設 木ノ浦ビレッジ」の管理運営を行ってきました。全8棟のコテージは、全室と風呂から日本海を一望でき、奥能登のさいはてならではの絶観と癒しを求めて国内外から多くの人が訪れています。

5年間支配人として業務に取り組む中、集落のお母さんが料理長となり、地元の人をどんどん巻き込んでいくことで、地域での認知度や愛着が高まり、出資者である地元の人に配当を出せるまで会社を成長させられたことは大きな自信になりました。

2019年から道の駅狼煙を運営する株式会社のろしの社長に誘われて入社したものの、いきなりコロナ禍という逆境からのスタートとなり、社員丸丸となって知恵を絞って業務改善を一気に進め、赤字続きだった経営からの脱却に成功しました。今回の地震でも決して諦めず、「答えは一つではなく、3通り持て」と澤先生がよく口にされていた言葉をいま一度胸に刻み、地域とともにこの土地ならではの魅力を発信できるよう努力していこうと思います。

(2024年7月12日 取材)



「道の駅狼煙」の人気商品といえば、幻の地豆・大浜大豆を使った地豆腐が有名。甘みと濃厚なコクにファンが多く、週末は午前中で売り切れることもあります



全日本空輸株式会社
客室乗務員

伊藤 真衣子

人文学部 1 期生

—大学卒業後、どんな仕事をされていますか。

客室乗務員として国内線と国際線に勤務しています。

—御社に入社された理由やきっかけがあれば教えてください。

小学生の頃から客室乗務員になりたいと考えていたので志望しました。また、昔祖父母がよく海外旅行に行っていました。その度に笑顔で帰って来られる理由の一つとして「航空会社の方々が安全を守ってくださっているからだ」と気づき、私もその一員になり、飛行機に乗る人たちの笑顔を守りたいと思ったからです。

就職活動を始めてから、数ある航空会社の中でもANAは常に今までにない発想を体现し、世界中にワクワク感を届けていると感じたため入社したいと考えていました。

—現在の仕事のどんなところにやりがいや魅力を感じていますか。

様々な場所に行き、多くの人に出会えることが魅力だと思います。日々のフライト1便1便が無事に到着した時やフライトを通して自身の成長を感じられた時、お客様と一緒に働く人々から「ありがとう」という感謝の言葉をいただいた時にやりがいを感じます。

グループ内外の会社で働ける機会もあり、早い時期から様々な経験を積み重ねることができるため日々勉強になっています。

—大学時代を振り返り、思い出に残っていることや、今の仕事で役立っていることがあれば教えてください。

大学1年生の時から留学や授業内外で異文化交流をすることで、「自身の当たり前は他の人や国の当たり前ではない」ということを学びました。

毎便初めて出会うクルーと良いチームワークを発揮するために、また、お客様と円滑なコミュニケーションを取るためにもとても重宝しています。

カナダ留学で英語力アップ

大学1年時に4ヵ月間の短期留学でカナダの大学に通っていました。クラスに日本人は自分一人だけでした。有意義な留

学生生活を送るため、常に積極的にクラスメートとコミュニケーションを図ったり、学校内のイベントに参加したりしていました。ホームステイ先でも毎日英語でコミュニケーションをとる時間をたくさん作っていただいたおかげで英語力の向上につながったと思います。

また、留学の経験を通して様々な国籍の人々と関わることで視野が広がったと感じています。その一例として、現在も英語以外の言語にも興味を持ち勉強を進めており、日常生活や乗務の際にとっても役に立っています。継続して勉強をすることや、語学力を維持することはとても難しいと感じますが、この仕事を通していろいろな人と会うことでモチベーションを維持しています。また、留学中に会った海外の友人とは今も連絡を取っており、お互いに会いに行ったりしています。そこで夢に向かって今も一生懸命勉強をしている友人の姿を見て自身を鼓舞しています。

学生時代のインド文化の講義が仕事で役立った

今年度はインド路線を担当することが多いのですが、大学時代にインドの研究をされている先生に教えていただいたヒンディー語やインド文化の講義などで学んだことが乗務の際にとっても助かっています。学生時代はまさか自分がインドに行く機会があるとは思ってもいなかったもので、少し不思議な気持ちになりました。これも何かのご縁だと感じ、先生にはとても感謝しています。

—最後にこれからの目標や夢を教えてください。

健康で元気に笑顔の絶えない客室乗務員として仕事を続けていけることが毎日の目標です。また現在、国内線の主客室乗務員(チーフパーサー)、国際線のエコノミークラスの責任者(パーサー)の資格取得訓練を控えています。無事に資格を取得できるよう、今後も引き続き、「小さいことほど丁寧に、当たり前のことほど真剣に」を実践して習熟を進め、安全運航堅持に努めます。



ヒューストン滞在中、空き時間に米航空宇宙局(NASA)のジョンソン宇宙センターを見学

粘り強く話し合い、情熱をもって取り組む。 一人ひとりが地域社会を支える人に

地域のリーダーとして活躍できる人材を育成するため 2024 年 4 月、金沢星稜大学経済学部地域システム学科が開設されました。初代同学科長に就任された石川美澄教授にこれまでの教員生活を振り返っていただき、ゼミ生との思い出や地域システム学科ならではの特徴や魅力などたっぷり語っていただきました。



石川 美澄 教授

(いしかわみすみ)1982年和歌山県那賀郡(現紀の川市)生まれ。2019年北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 観光創造専攻博士後期課程(単位修得退学)。2020年同大学院博士(観光学)取得。2018年金沢星稜大学経済学部経営学科に着任し、2024年から現職。専門は観光学。趣味はマンガを読むこと。

事前準備が大変でも やりがいの大きい学外学習

—これまでの教員生活を振り返っていかがですか。

大学教員歴は12年目、そのうち金沢星稜大学では7年目と浅いですが、「観光学」や「大学でツーリズムを学ぶこと」に対する大学生や高校生の認識が大きく変わってきました。ここ数年は、まちづくりや地域創生・地域活性化のために観光という現象を学びたいという学生が増えているように感じています。

金沢星稜大学でのゼミナール活動では、学生とともに様々な地域を訪ねたり、事業者の皆様とやりとりできたりするところが魅力的だと思います。学外に出ることは事前の調整や準備、学生指導等の面で大変なことも多いですが、偶然の出会いがあったり、学生同士の意見交換が活発になったりするのでもやりがいも大きいです。

学生の成長を感じた 地域交流イベント

—学生と思い出に残っていることはありますか。

専門ゼミ3年有志による「公共施設の新たな使い方」を提案・実施した2つのイベントです。1つは、冬の寒空の下ピロティでこたつに入りながら金沢おでんと地ビールを楽しむもので、もう1つは学生の好きなモノ(ゲームや手芸、イラストなど)を組み合わせた展示会&謎解きイベントでした。春から事前調査や会場下見、企画内容の検討を始めたものの、企画を出しては様々な理由でボツになるという繰り返しでした。夏休みに入っても何も決まらない中、前者のグループは地元・南砺市の事業者の方々とのやりとりを通して、後者のグループは学生同士で協議を重ねて最終的に目標・プランを設定し、見事実現しました。私が活動目標等を提示することは簡単ですが、手出し口出しをし過ぎないように心がけています。



参加した子どもたちにも好評だった謎解きイベント

—地域システム学科の初代学科長に就任された意気込みをお聞かせください。

「住んでよし、訪れてよし」の地域社会の発展に貢献できる学科と人材輩出を目指しています。地域社会は、環境や経済、雇用、歴史、自然、文化等が複雑に絡み合って形成・維持されているため、例えば観光客誘致を推し進めるとオーバーツーリズムのような現象を招きかねません。観光客のような一時的な滞在者と住民の双方が穏やかに過ごせるまちづくりの実現は一筋縄ではいきませんが、学生や教職員、同窓生の皆様方と力を合わせ、実践的な教育と研究を推進し、地域社会のニーズに応えられる学科となるよう努めていく所存です。

“住んでよし、訪れてよし” 2つの側面から地域を探究

—地域システム学科のアピールポイントを教えてください。

個人的な意見になりますが、「住んでよし、訪れてよし」の2つの側面から現代社会や地域について学べる点が魅力です。

1, 2年次の学びを通して、住んでよしを支える「暮らし」や「働き方」、訪れてよしを支える「観光・レジャー」「移住」、あるいは両方にかかわる「環境」「経済」「歴史」「自然・文化資源」への理解を深め、3年次から専門的に学びます。

1年後期からフィールドワークも経験でき、社会で必要とされる調査倫理や調査の手順、データ分析等の実践的なスキルを習得できます。また、学科教員の中には元公務員や民間企業、団体で実務経験のある方々も多いため、多角的な視点を交えて専門知識を身に付けられます。

—最後に卒業生にメッセージをお願いします。

石川県内はもちろん、富山や福井などにも地域システム学科の活動フィールドを広げていきたいと考えています。地元でお会いした際にはぜひ一緒に活動できれば嬉しいです。



学生たちが地域の人の話を聞き、現地をまわり、地域課題を確認したフィールドワーク

「星稜のと応援祭」を開催しました



令和6年能登半島地震の復興イベントとして企画された「星稜 のと応援祭」が6月8日（土）～9日（日）の2日間にわたり開催されました。「星稜から笑顔の架け橋を!」のスローガンのもと、義援金の受付、輪島朝市をはじめとした能登地区からの出店や特産物の販売、学生団体や企業等による模擬店や体験型イベント、ステージ企画、チャリティーお笑いライブ等が行われました!



季節先取りの暑さのなかでの開催となりましたが、被災地からもたくさんのご家族にお越しいただき、来場者は2日間で2,000人を超えました。学生団体の模擬店の利益、イベントのチケット収入、皆様からお預かりした義援金は、日本赤十字社を通じて被災地に届けられ、復興支援に役立てられます。ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました!

富山県支部活動報告

- 2023年（令和5年）11月4日土曜日、会場 富山県射水市松原屋にて講演会、懇親会を開催しました。講演会は、金沢星稜大学学長 大久保英哲先生に幻の能登駅伝についてご講演いただきました。
- 2024年（令和6年）7月13日土曜日、富山県射水市（大門総合会館）にて定期総会を開催しました。
【報告審議事項】令和5年度事業報告、会計報告、会計監査報告は報告審議の上、承認されました。
令和6年度事業計画（案）予算（案）が審議され、承認されました。
- 金沢星稜大学同窓会 富山県支部 総会関連事業 講演会 懇親会
2024年11月16日土曜日、富山県射水市松原屋にて開催いたします。今回の講師は、金沢星稜大学人間科学部スポーツ学科 笠原亜希子先生です。みなさまの参加お待ちしております。



学園祭に出店しました

11月4日（土）5日（日）金沢星稜大学同窓会は流星祭（大学学園祭）に大判焼き＆コーヒーのメニューでブースを出店しました。初めての出店でありましたが、天候にも恵まれ大判焼きは2日間で用意した分完売となりました。

ご購入いただきました皆様、ありがとうございました。今年も出店を計画しておりますので、お寄りの際は是非一度お試しください。



2名の学生が北國フォトクweenに!

本学より2名の学生が、北國新聞社の主要行事でアシスタントや北國写真連盟の撮影会でモデルを務める「北國フォトクween」として選出されました。任期1年間で石川県の魅力を全国へ、そして世界へ発信できるよう活躍に期待します。



【準グランプリ受賞】

人間科学部こども学科 3 年次

ぬきた あおね
貫田 青音

（富山県 呉羽高等学校出身）

私は富山県出身で大学1年次の頃から石川県で暮らすようになり、石川県内には多くの美しい景色と美味しい食べ物がたくさんあると感じました。1年間の北國フォトクweenの活動を通して、私が体験した感動や石川県の魅力を多くの方に発信していきたいと思っています。また、大勢の方に囲まれての撮影は初めての経験で不安な気持ちもありますがこの貴重な経験を大切に、私自身の成長と自信に繋がっていけるよう、努力してまいります。



【準グランプリ受賞】

経済学部経済学科 2 年次

もり ののか
森 希颯

（石川県 星稜高等学校出身）

私は何か一つでも石川県に貢献し、石川の魅力や武家文化を伝えたいと考えております。能登半島の日も早い復興を願いつつ、今後さらに石川を活性化させていくためにも、自分が生まれ育った地元の魅力を発信し、貢献して参ります。北國フォトクweenでの活動を通して、私自身の多面的な魅力を多くの方に発信していきます!そして、撮影会など初めての経験がこれからたくさん待っているの、笑顔で楽しみたいと思います!